

雑 感

ある開拓地の入植者の話では、雑草も生えなかった所で努力して、雑草が発生するようになった時には、非常にうれしかったそうである。作物の栽培において、雑草が密接にかかわっていることを示す言葉であろう。

最近、各地の水田で多年生雑草の発生が増加しているが、この1原因として、従来問題であった雑草に有効な除草剤が広く普及したためと言われている。

ところで、作物の栽培方法、生理生態などについては、昔から膨大な研究が行なわれてきたが、雑草および雑草防除に関する研究、特に雑草の生態や雑草害に関する研究の歴史は浅く、解明しなければならない点が極めて多い。

農業労働力が減少している今日、除草剤は必要不可欠な農薬である。これまでに数多くの除草剤が開発され、使用されているが、より安全で、より使い易い除草剤の開発に一層の努力が必要である。

しかし、新農薬の開発には莫大な労力、時間、費用を要する。従って、開発した除草剤を大切に使用してゆく方法を明らかにする努力も必要である。

植物調節剤利用開発普及三十周年、(財)日本植物調節剤研究協会設立十六周年を迎えたことは大変喜ばしいことであり、これを機会に雑草防除に関する研究がさらに推進され、よりよい防除技術が確立されることを期待したい。

〔財団法人 日本植物調節剤研究協会理事
武田薬品工業株式会社常務取締役農薬事業部長 寺田 楽〕

目 次 (第14巻第8号)

ムラサキカタバミの形態と生理生態
的特性……………2

＜岡山大学農業生物研究所 中川恭二郎＞

1. カタバミ属……………2
2. ムラサキカタバミの形態……………2
3. ムラサキカタバミの生活環と
気温との関係……………3
4. 鱗茎の形成と発芽……………5

ムラサキカタバミの防除について……………7

＜鹿児島農試徳之島糖業支場 元田徳広＞

1. は じ め に……………7
2. 耕種的防除法……………7
3. 機械的防除法……………7
4. 除草剤による防除法……………7
5. ま と め……………10

沖縄における野菜栽培と雑草防除……………10

＜沖縄県農試園芸支場 仲宗根盛雄＞

1. ま え が き……………10
2. 最近の沖縄農産業の動向……………10
3. 野菜農業と除草……………12

外国文献抄録……………14

除草剤使用面積一覧表……………17

表紙の写真は、ケフシグロの種子表皮細胞を走査電子顕微鏡で撮影したもの、星状突起型、550倍。

〔写真提供者：笠原安夫氏〕